

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第121号(2017. 4. 1)  
事務局川西地区自主防災会

## 新設山本小学校「子供防災リーダー育成」のスタート

三豊市立山本小学校  
校長 山下 昌茂

### 1 開校の年に第1回防災訓練を実施

大きな影響力を持って小さな子供の心に残ります。実際として、①何時起きてもおかしくない地震に対応できる(20)、②新設学校の伝統となる(13)、③新たな地域とつながる(7)・・・という価値で子供たちは本訓練を捉えています。ご協力頂いた各種関係団体に心より感謝いたします。

また、訓練開催年は、熊本大地震が起きた年でもあります。現地の被災学校を調べてみると、本校と同名の熊本市立山本小学校があるのを知り、6年生同士で情報交流を始めることとしました。この交流活動に対する価値も、①恐怖が実感できた(22)、②意識が一層高まった(5)、③対策内容が理解できた(29)、④自らの対策不足に気付いた(8)・・・と、子供たちは捉えています。

\*文中記載数字は、6年生52人中の人数

# 開校

学校だより NO. 126

平成29年1月23日  
三豊市立山本小学校  
＜文責：山下昌茂＞

## 「第1回防災訓練」の概要

□期日 2017. 1. 27  
□場所 三豊市立山本小学校

12:45	訓練メール配信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童は避難教室（自治会別教室）へ移動し、色テープを服に貼付して待機</li> <li>○ 保護者は12:40までに来校し、校庭（校舎外）で訓練メールを受信</li> <li>○ 保護者は持参した上靴に履き替え、下靴を袋に入れて避難教室に向かう</li> </ul>
12:55	引取訓練・集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者は我が子の避難教室で、事前に配布した「引取カード」（時間の関係上、事前に記入して持参）を提示し、引きとる（保護者不参加の場合は、教員が代役）</li> <li>○ 親子で集合場所の体育館へ、12:55までに移動し、自治会別に整列</li> </ul>
13:00	開会式	○ 挨拶・防災訓練関係団体紹介・訓練日程説明等
13:15	訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自治会グループ毎にローテーションしながら、以下8種の訓練を体験</li> <li>○ プラカードを目印に、8種の中の最初（第1訓練場所）に移動</li> <li>○ 1種13分間ずつ体験し、一斉の号令（放送）により、2分で場所移動</li> <li>○ 1つの活動班が70名前後の大勢であるため、指導者の指示に従う（全員の直接体験は困難。可能な限り高学年から積極的な参加を！！）</li> </ul>
15:30	防災発表	○ 最初に体育館に集合した隊形で研修（6年生による防災学習報告）
15:50	閉会式	○ 講評・挨拶
16:00	片付け・下校	○ 児童は教室（各学級）に移動 保護者は一旦待機（片付け後下校）

### 8種目の訓練内容と場所

番	種目	場所	指導責任
1	応急処置	生活科教室+フリースペースC	川西自主防（丸亀）
2	心肺蘇生（AED）	フリースペースA+B	川西自主防（丸亀）
3	担架組立搬送	児童玄関付近ロビー	川西自主防（丸亀）
4	居住スペース確保	体育館前方	川西自主防（丸亀）
5	家具転倒防止対策	体育館後方	川西自主防（丸亀）
6	水消火器	正門（ピオトープ付近）	川西自主防（丸亀）
7	土のう作成	砂場	大上自主防（山本）
8	バケツリレー	バックネット付近	川西自主防（丸亀）

\*種目は、1→2、2→3・・・8→1へとローテーション

【参加協力団体】  
丸亀市川西地区自主防災会・大上自主防災会・まちづくり推進隊山本・社会福祉協議会・山本小学校PTA 他



\*裏面参照

### 2 小学生主体の防災訓練

#### (1)意義

今から25年・30年後・・・、その前後にこの地で大きな地震が、70%の確率で起こると言われています。25・30年後というと、今の小学生の子どもたちが30～40歳前後の年にあたります。結婚をして、家庭をもち、小学校に通うくらいの子供がいる環境でしょうか。おそらく両親は70歳近く、家族では中心となり、責任ある立場となっています。また、地域でも働

き手の中心となって活躍している頃でしょう。私たち大人は、この子たちのお世話になる立場になります。そんな状況に置かれる子どもたちだからこそ、今指導しておかなければならないのです。

では災害に備えて何を指導すべきなのでしょう。その内容は次の2つです。

1つは、地震の被害を最小限に減らしていくための知識です。2つ目は、被害にあった近所や地域の人までも救おうとする、他人への気遣いができるボランティア精神・心の高まり・感覚です。

現実問題として、消防・警察・自衛隊等々、公共の組織は私たち個人を即座に助けに来ることはできません。そのため、まずは、近所同士で助け合い・救い合おうとする心の育ちです。特に、この心については、大人になってから育てることは難しく、心柔らかな子どもの頃に培わなければならない大切な資質・能力と考えています。そのために小学校では、修学旅行の目的地に被災地を位置付けるとともに、6年生を中心に防災学習を実施しています。

## (2) 社会人防災の素地づくりと地域の絆

大人主体の活動に子どもが参加する形をとると、肝心の子どもが客体となり、感覚を育てるといふねらいが達成しにくくなります。そのため、子どもが主体となる以下の3点を意識して計画することとしました。

### ○ 学校行事として位置付ける(主体は学校)

地域行事は、大人の活動に子どもが参加する活動になります。最近の子ども会活動であっても、親が準備したものをただ食べるだけの状況が目につきます。学校主体として位置付け、教育活動の明確なねらいのもとで、子どもが主役の活動を計画します。このことが、学校内から、自らの地域の中での主役意識へと拡張していきます。

### ○ 子どもを先頭に活動させる

集合・移動・体験活動等の全て、子どもを先頭にします。特に移動場面においては、大人を先頭にすると、列を作らない・歩く速さが一定しない・私語が増える等の問題が起こりやすくなります。低学年であろうと、教育されている子どもたちが、素早く無言で整列する・整然と列を組んで移動する・真剣に活動する姿等を見ると、大人もそれをモデルとして真似ます。それは、我が子の成長に喜びを感じ取るのと同時に、親として、子どもの手本でありたいと言う意識が強くなるからです。

### ○ 子どもが発信・提案する場を位置付ける

例えば教師が、喫煙している父親に「健康に悪いから禁煙してください」と言うと、諍いになるでしょう。しかし、学校での禁煙教育を受けた子どもが、大切な父親の健康を思い、家に帰って「タバコは健康に悪いということを今日学校で学んだよ。お父さんの命が大切だから、お父さんに何時までも元気でいて欲しいからタバコを止めて」と言うと、どうでしょう。私の過去の実践でも父親の心は動きました。これは、我が子からの訴えは、成長を感じたり、自分のことを思ってくれる愛情を感じたりするからと考えられます。ま

た、これは同時に、学校での教育実践のアピール・発信にもつながります。

防災教育も同様に、子どもの口(言動)を通して、家庭・地域に発信させ、地域全体を変えようとする構造をつくることです。そしてこの構造こそが、編み目のような地域の絆となっていくのです。子供が動くと大人(地域)も動きますから…。

6年生のアンケートから見ても、初回となる今回の小学校行事としての訓練の価値を、①一般的な地域の訓練より、大人の意識がより高まったと感じた(22)、大人の力を借りなくても自分たち子供だけで実践できる能力がより育つ(20)、災害時に知識を生かす自信がついた(21)、自分の子供にも指導できる自信がついた(9)、ボランティアに参加したい(7)、災害時に冷静に対処できそう(27)と、答えています。この意識は、社会人防災の素地としても捉えられます。

### 3 小学校が地域に与えるインパクト

いくら地震の恐さを伝えても、いくら災害による悲惨な情報や映像を伝えても、我が国の各家庭・地域における防災対策は進んでいないのが現状です。心は動くが、行動につながらないのです。

しかし私は、小学校が地域に与えるインパクトは大きいと感じています。それは、子供がいるからです。頼りない、幼い、力が無いと捉えている小さな子供の期待を超えたキビキビとした言動は、大人を動かす力を持っています。

現に、自主防災組織が存在していなかった地域も、子供(学校)の行動に感化され、新たに組織が生まれました。

家具転倒防止対策率14%だった地域も、子供(学校)が動くと、わずか2週間で92%まで高まりました。これは、6年生の呼びかけに加えて、校長からも全校生に、家具固定を冬休みの宿題として与えたからです。ここには、次のような3つの意図を含んでいます。



- 冬休み前には、各家庭で大掃除が行われるため、家具防止対策のチャンスが生まれる。
- 子どもの意識が高まり、先頭に立って自らが動こうとすると、必ず家族の応援が生まれる。
- 命を守ることに関わる取組は、ある程度、強制的に指示(宿題)することが必要と考える。

#### 4 教員生活を振り返って

私の本来の研究教科は算数です。38年間本気でこの教科と向き合ってきたつもりです。そのためか、私には途轍もなく大きな力を持った支援者ができました。また、ある学校で勤務していた際、専門外の食育の研究指定を受けました。しかし子供の健康を願って真剣に取り組みました。そのためか、この分野でも途轍もなく大きな力を持った支援者ができました。さらに、この防災教育関係においても同様に途轍もなく大きな支援者ができました。

何にでも、本気で取り組んでいると、必ず、後押しをしてくれる人と知り合えると言うことを学んだ38年間でした。

#### 5 かがわ自主防へのお礼

今回の訓練で、防災意識が高まり怪我人が減る(41)、安心感が高まった(6)と、子供は答えています。確実な意識の変容です。このままの本気の取組・姿が、途轍もなく大勢の子供たちの心を耕し、実践家を育てることにつながっていくでしょう。お世話になりました。

## 離任のご挨拶

元香川県危機管理総局危機管理課 政策主幹(兼)副課長 浜崎正人

このたびの人事異動により、監査委員事務局に異動することになりました。2年間の短い期間ではありましたが、皆様の活動に接することで、自主防災組織が担う役割の重要性を認識することができました。また、いくつかの自主防災組織の会長さんやメンバーの方達から、活動状況や課題について直接お話を伺う機会があり、その熱心な活動ぶりに敬服するとともに、自主防災組織が地域防災力の向上に大きな役割を果たしていることを痛感いたしました。

南海トラフ地震が今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予測されている中、大規模災害発生時には、地域の安全を地域住民が互いに助け合って守る「共助」の果たす役割は大きいことから、県としてもかがわ自主ぼう連絡協議会と十分に連携し、自主防災組織の機能強化に取り組んでいるところです。今後とも本県の防災・減災対策へのご協力をよろしくお願いします。最後に、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後益々のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、転任のご挨拶といたします。

元香川県危機管理総局危機管理課 課長補佐 三谷一秀

自主防災組織の担当課長補佐として2年間、皆様方には本当にお世話になりました。

私の記憶に最も残っている出来事としましては、やはり、昨年4月の熊本地震です。「被災地の方々に温かいうどんや豚汁を提供し、元気づけたい」という思いで、被災地支援に行かれた岩崎会長をはじめとする協議会の皆様の姿が今でも目に浮かびます。発災から10日過ぎには、「炊き出し隊」を結成し、現地に向かわれた行動力とチームワークには、敬服いたしました。昨年11月に実施しましたリーダー研修会に熊本市立秋津小学校の先生を講師として呼び出した際にも、先生が、「私は、講師として来たのではなく、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様にお礼に来たのです。」と涙ながらにおっしゃっていたのが思い出されます。

短い期間ではありましたが、皆様方からは多くのことを学ばせていただきました。今後の皆様方のご活躍を祈念申し上げ、離任のご挨拶といたします。

元香川県危機管理総局危機管理課 主任 高橋大

平成25年4月に危機管理課に配属されて以来、皆様方には、大変お世話になりました。

大規模災害発生時に被害を軽減するためには、行政の力だけでは限界があり、自らの身は自ら守る「自助」、地域の安全を地域の住民が助け合って守る「共助」、行政による「公助」が連携・協働することが極めて重要であります。

防災・減災は、県民の皆様一人ひとりが、まずは自らの身を守ることから始まりますが、防災・減災の要となる自主防災組織の皆様の活動により、「共助の輪」が拡がりつつあることを実感しており、大変心強く思います。

最後になりましたが、かがわ自主ぼう連絡協議会の益々のご発展と皆様方のご活躍を祈念して離任のご挨拶とさせていただきます。4年間ありがとうございました。

## 事務局だより

平成29年 4月

今月の事務局だよりは、事務局を担当している川西地区の近況をお知らせします。

(1) **年度替り**でご勇退とか転任の季節でもあります。県庁では危機管理課の三谷補佐が転出されました。三谷補佐はフットワークと心くばりのできる素晴らしい県庁マンでありました。新しい職場でのご活躍を心からご祈念申し上げます。

(2) **香川県教職員人事異動**の中で多くの先生との別れがございましたが防災の切り口からでは三豊市立山本小学校校長の山下さんが40年近い教員生活を終え、ご勇退されました。私達が東日本大震災復旧支援で岩手県陸前高田市で「炊き出し」活動を行なっている最中にご連絡をいただいたというご縁でございますが、山下校長先生の児童生徒に対する情熱に私達も心を動かされ、以後、防災教育だけでなく、人間としてのおつきあいをさせていただきました。もちろん、お酒を飲みながらの意見交換も何度も楽しくさせていただきましたことは私達の人生に忘れることのない思い出にはなりました。新転地でのご活躍と今後のご交誼もお願いするしだいです。



三豊市立山本小学校校長 山下先生

(3) **私的なこと**で申し訳ありませんが、「夜回り犬」として頑張ってきました我が家の「ポチ子」、18年間に幕をとじ、平成29年2月27日、眠るように旅立ちました。平成22年の冬、夜回りのなか、田んぼに落ちていた老人を発見、人命救助として、市長さんと警察署長さんから感謝状をいただいた経歴もある、人に優しい夜回り犬で亡くなる一週間前まで自治会の夜回りとして、雨の日も強風の中でも休むことなくパトロールしてきました。今はおつかれさんと何とも淋しいのひと言です。

文責：岩崎正朔

### 編集後記

今月の防災減災の輪は、三豊市立山本小学校校長山下先生の手稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。